

日本語教員養成課程の現状と課題 (モンゴル国立教育大学)

D. BURMAA
A. GANCHIMEG
J. GANKHUYAG

発表内容

1. カリキュラムの変更
2. 目標設定 (どんな専門家を卒業させたいか)
3. 具体的な取り組み
 - 3.1 目標言語再考 (スタンダード作成)
 - 3.2 新科目 (教授法) への取り組み
 - 3.3 教材・教科書の変更と作成
4. まとめ

1. カリキュラムの変更

	2003年	2007年	2010年	2011年
取得資格	日本語通訳者・翻訳者	日本語教師・訳者	日本語教師	日本語教師
一般科目	17単位	23単位	22単位	25単位
教職に関する科目		33単位	33単位	33単位
教科に関する科目 (日本語)	108単位 91単位	69単位 65単位	65単位 61単位	62単位 59単位
合計単位	125単位	125単位	120単位	120単位

1.1 教職に関する科目

No	科目名	単位数	履修年次
1.	専攻基礎 (教職概要)	1	1
2.	心理学	5	1~2
3.	教育学	7	2
4.	保健教育	1	2
5.	日本語教授法	6	3
6.	研究発表	1	3
7.	教育実習	12	4
	合計単位	33	

1.2 教科に関する科目

No	科目名	2003年 単位数	2011年 単位数	2011年 履修年次
1.	文法	10	10	1~3
2.	会話	23	15	1~4
3.	漢字	2	2	1
4.	発音	2	1	1
5.	翻訳	20	12	2~4
6.	読解	3	2	2
7.	聴解		1	2
8.	作文	3	3	2~3
9.	日本語論	4	2	3
10.	日本事情	4	2	3
11.	日本文学	4	2	3
12.	日本史	5	1	4
13.	選択授業 (日本語中・上級、指導技術、 翻訳技術、比較文法)	6	6	4
	合計単位	91	59	

2. 目標設定

(どんな専門家を卒業させたいか)

専門性

- 日本語能力試験N2かN2に相当する能力を持っている
- 日本語教授法に対する知識と指導する能力を持っている
- 日本と日本文化に関する知識を持っている

人間性

- 日本語教育の専門家として、自らの職業の専門性とその意義についての自覚と情熱を有する
- 学習者に対する愛情を持つとともに厳しくするとき厳しくして学習者の尊敬を受けられる
- 道義上の責任を持つ

自己教育力

- 持続的に成長する意欲や能力を持っている

2.1 課題

1. 日本語を勉強する時間数の減少→卒業時N2レベルに到達させるにはどうすればよいか。
2. 教員養成課程に変わったことによる日本語教授法などの新しい科目をどうするか。
3. 日本語教員養成課程に入学する学生数の減少。
4. 教育実習生を受け入れようとする学校が少ない。

3. 具体的な取り組み

教員養成課程への変更や日本語能力試験が変わったことなどによって、本大学日本語コースの目標やシラバス、カリキュラム、教材などを変えざるを得なくなった。

3.1 目標言語再考

(スタンダード作成)

4技能を1～4学年まで連続的に上達させることを目指してCEFRとJFスタンダードを参考に、教育大学日本語スタンダードの叩き台をつくり、カリキュラムに生かそうと試行中。

3.2 新科目(教授法)への取り組み

• 教授法のテキストをどうするか

JICA シニアボランティアによる教授法テキスト作成 (2008年)
→モンゴルの学生の実情に合ったテキスト作成へ

• これまでの教授法の見直し

3.3 教材・教科書の変更と作成

- 日本語能力試験が変わったことによってN5、N4、N3、N2に対応する能力を習得させなければならなくなり、テスト対策教材を使用。
- 初級日本語の解説書『モンゴル人のための日本語初級Ⅰ、初中級Ⅱ』を作成。
- 日本事情、日本文学、日本史など授業に使うテキストを作成中。
- 教員養成課程に変更したために重視されるべき学習項目の検討。

4. まとめ

- 教育大の日本語コースは、国の教育政策に従って、教員養成課程の整備・充実に取り組んでいる。
- 教育実習の場の確保→初中等教育機関との連携強化に努める必要
- 卒業後の職場開拓